

# 始まっています 地域内交流!

## 「平山区ふれあい・いきいきサロン」



左: 村田芳次さん  
右: 村田三夫さん

このコーナーでは、地域内で行われている様々な交流活動を紹介していきます。今回は、「平山区ふれあい・いきいきサロン」をご紹介します。「ふれあい・いきいきサロン」は子どもから高齢者まで、様々な年代の人が、イベントなどを通じて交流する事業で、社会福祉協議会が中心となって推進しています。

平山で、「ふれあい・いきいきサロン」の役員を務める村田三夫さんと村田芳次さんに話をうかがいました。「平山区ふれあい・いきいきサロン」では、子どもから高齢者までを対象に、夕涼みやミニ文化祭、敬老会、会食会、布ぞうり作り、うどん作り、餅つきなどを行っています。

敬老会では、子どもが高齢者と一緒の席に座り、舞台上で歌を唄ったり、高齢者に手作りのプレゼントをしたりします。会食会では、町保健師の話や警察官による振り込め詐欺予防の講話を聞くなど、自ら学ぼうとする積極的な内容になっています。夕涼み会も以前は、子どもに花火を配って、映画を見せて終わりました。



楽しい「布ぞうり作り」



みんなで「お餅つき」

現在は、盆踊りを中心に焼きそばやフランクフルトを用意して皆で楽しむようにしています。そのおかげで、毎年約200人が参加します。

また、何より力強いのは、サロンの運営を30人いる役員が力を合わせて行っていること。そして、地区の人が、臼、杵、セイロ、釜などの道具や小豆、ネギ、さつまいもなどの食材を持ち寄ってくれるのです。

サロンの運営は、「自分たちで汗をかいて餅つきをしたり、布ぞうりを作ったりする過程を楽しめるようにすると地域の人も自分たちのイベントとして参加してくれるようになります」。そして、「苦にならない程度に行うこと。継続していくこと。子ども会の協力を得ることが成功の秘訣です」「これからも地域の人と顔見知りになったり、交友関係を広げるときっかけづくりをしたい」と二人は語ってくれました。

「地域内交流」の紹介は、今後も掲載していきます。

## 毛呂山歴史散歩

文化財シリーズ190

### 新春と女性

～女の正月、オシラ講～

毛呂山ではかつて1月1日に始まる正月のことを「大正月」、1月15日を「小正月」と呼んでいました。暦のうえでは、元旦とともに春を迎えたとされ、ここから一連の新春行事が始まります。

「大正月」の行事は男が中心となり、三が日の食事はその家の男性が作るとか、松の内（1月7日）までの間は白いものしか食べてはいけないなどの禁忌があり、多くの家庭で行われてきました。また、親戚縁者が集まって新年を寿ぎ、飲食を振舞う「大番」も行われました。これは「大番振舞い」の語源となった言葉です。

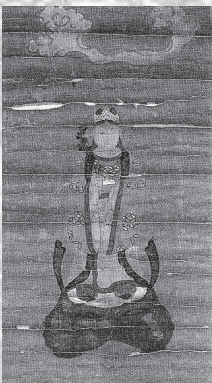
「大番」が男性主体の正月であるのに対し、小正月は「女の正月」といわれます。そして、この小正月を境に正月行事はほぼ終了し、食事も日常のものへと戻ります。1月15日に小豆粥を食べてもよいという伝承が毛呂山にも残っていますが、これはこの日から白いもの（食物）を汚

してもいいという意味を持ち、正月期間の終わりを示しています。

このような正月行事の次に、春の養蚕を始める前の「オシラ講」といわれる女性の集まりがあり、今もこの呼び方が残っている地域もあります。オシラ講とは、古くは地域の女性たちが食材を持ち寄って集まり、飲食し、養蚕の神様である「オシラ様」を祀ってその年の蚕の豊作を願う行事でした。オシラ様は、馬の花嫁になった娘が神になり、繭となつたなどの説話を持ち、いずれも女神とされています。

ふだんはたとえ近隣であつても女性同士が集まって歓談したり、飲食を共にすることのなかった時代に、女性だけでおおびらに楽しめる貴重な娯楽日だったともいえます。オシラ講はその後、養蚕が行われなくなつてからも地域女性の交流の場として継続されてきました。

男性中心のかつての行事のなかにも女性を楽しませる行事があつたことは、日ごろ苦労している女性を尊重する気風があつたといえるのではないのでしょうか。



川角地内のオシラ講で祀られたオシラ様の掛軸